

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

松本市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除の 取組み
事業費 5,141,320 円 (うち支援金: 5,136,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫によるアカマツの枯損被害が進行しており、市域の南限から、他市村へ感染が広がり始めている状況。

(2) 本事業の目的

市内で行われる、松くい虫被害木の伐採処理に対し補助金を交付することで、被害の拡大及び倒木被害の防止を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 松本市内 (地区実施計画松林外)

(2) 対象者 松管理者 (個人・団体)

(3) 実施方法 市内で行われる被害木の伐倒及びくん蒸・破砕費用へ補助金を交付する

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和元～4 年度)

年間交付件数 140 件以上の補助金交付を見込む

②令和 2 年度計画

交付件数 140 件



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

市内の松くい虫被害木の除去を促すことで、被害拡大の防止を図ることができる。また、倒木による被害を未然に防ぐことができる

(2) 継続性

次年度以降も補助金交付事業を継続する。

(3) 普及性

市公式HP等で補助制度の周知に努めることで、事業の普及が図られる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

感染源となる被害木を処理することにより、防除への住民意識の向上が図られた。

(2) 課題

森林外においても松くい虫の被害の拡大があり、申請件数は増加傾向にある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	塩尻市
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える 豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費 13,310,000円 (うち支援金: 2,117,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

片丘地区市道山麓線沿線は、アカマツ林が多く林齢が増大しており、近年大雪による雪折れ、台風による風倒木、病害虫等による松枯れ、鳥獣被害等が課題になっている。

(2) 本事業の目的

高齢級のアカマツを皆伐し、緩衝帯を整備することで、気障害および病虫害、鳥獣被害等を予防する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 塩尻市大字片丘 (塩尻 I C 西側)

(2) 対象者 山林地権者 15 名 実施主体 塩尻市

(3) 実施方法

地権者からの承諾を受け、対象森林区域内の緩衝帯整備を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 年から令和 2 年) 平成 30 年度: 1.35ha 令和元年度: 3.55ha
令和 2 年度: 3.34ha

②令和 2 年度実績: 3.34ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

緩衝帯を整備することで、気象害、病虫害、鳥獣被害を予防する。 /

(2) 継続性

推進支援金等を活用し、継続的に実施する。 /

(3) 普及性

今回の整備箇所をモデルとして、地域への波及効果を期待している。 /

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

対象区域3. 34haの緩衝帯整備を実施。 /

(2) 課題

- ・緩衝帯整備（樹種転換）による近隣の気象害、病虫害、鳥獣被害の予防効果、被害量増減の確認検証 /
- ・官民共働を図り、広域的森林整備に併せた緩衝帯整備（樹種転換）の推進 /

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

令和3年度は地区保全森林への病虫被害拡大防止のための緩衝帯整備を実施。

対象区域：地区保全森林から約2.0kmの被害拡大防止森林 /

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	安曇野市
------	------

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除等病害虫防除の取組【松くい虫防除対策事業】
事業費		2,214,245 円 (うち支援金: 2,060,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当市では、松くい虫被害の拡大により、平成 25 年度には過去最高の 8,817 m³の被害量となった。その後、若干被害量は減ったものの、依然 8,000 m³前後の高水準で被害が続いている。被害は森林エリアだけではなく平地（庭木等）にまで広がっている。

(2) 本事業の目的

個人庭園等の松枯死木の伐倒駆除経費に対して補助金を交付し、市全体の健全な松の保全や被害蔓延防止を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 安曇野市内

(2) 対象者 市内の松を所有する者

(3) 実施方法 市内の個人庭園松や地域神社林の枯死した松を伐倒処理した経費に対して 2 分の 1 以内の補助金を交付する。実績補助とし実績報告により補助金を交付する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）松枯損木伐倒処理：年間処理本数 500 本を想定

②令和 2 年度実績 全体計画の内本事業対応分として、松枯損木伐倒処理 39 本



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害の抑制及び拡大防止

(2) 継続性

松くい虫被害が今後も想定されるため、被害の拡大防止の観点からも継続が必要である。

(3) 普及性

被害の蔓延防止と、倒木等による二次被害の防止及び景観の維持を図ることで事業効果を伝える。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

松枯損木の処理をすることで、松くい虫被害の蔓延防止と倒木による二次被害の防止が図られ、市民生活の安心・安全を確保することができた。

(2) 課題

松くい虫被害の拡大により、松枯損木の処理の増加が見込まれ、市民への補助制度の見直しも必要になっている。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

松くい虫被害も継続的に発生していることから、補助制度の見直しも含め今後も事業の継続を行う。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	安曇野市
------	------

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	地域住民との協働による森林作り活動の推進 【安曇野市里山再生計画推進事業】
事業費		579,000 円 (うち支援金: 521,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

里山は、人々が長い年月にわたり利用し続けたことによって、成り立ってきました。しかし、私たちの生活スタイルの変化などに伴い、里山を利用することが少なくなりました。その結果、里山には様々な問題(鳥獣被害、里山荒廃等)が生じています。

(2) 本事業の目的

里山再生計画では、人々が今の生活スタイルにあった里山を利用する取組として、里山の資源を利用、里山での活動推進、里山荒廃・鳥獣被害の減少を、具体的な 4 つのプロジェクトにより、現在の里山でおきている課題の解決につなげていきます。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 安曇野市内
- (2) 対象者 安曇野市内で活動する市民、事業者等
- (3) 実施方法 具体的な 4 つのプロジェクトにより里山での取組を実施する。
- (4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 27~令和 6 年度)

安曇野市里山再生計画(第 2 次)(令和 2 年度~令和 6 年度)

②令和 2 年度実績: 具体的な 4 つのプロジェクトにより取組を実施



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

本事業により、里山を身近に感じる機会を増やし、里山への関心を高め、里山で活動する地域住民等が増える。

(2) 継続性

平成27年3月に策定された「安曇野市里山再生計画」のなかの具体的な取組みであり、安曇野市として計画を継続的に推進している。

(3) 普及性

本事業は、市民等と行う協働の取組として実施されており、各プロジェクトの取組により市民等へ浸透していく。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

「あづみの積木キャラバン」は、新企画であったが、キャラバン隊の立ち上げから子ども園での開催まで計画通り実施でき、子ども世代への木材普及にアプローチできた。また、松枯れ材を活用し、紙芝居や絵本による里山への理解や啓発も併せて実施できた。

(2) 課題

特段の課題無し。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

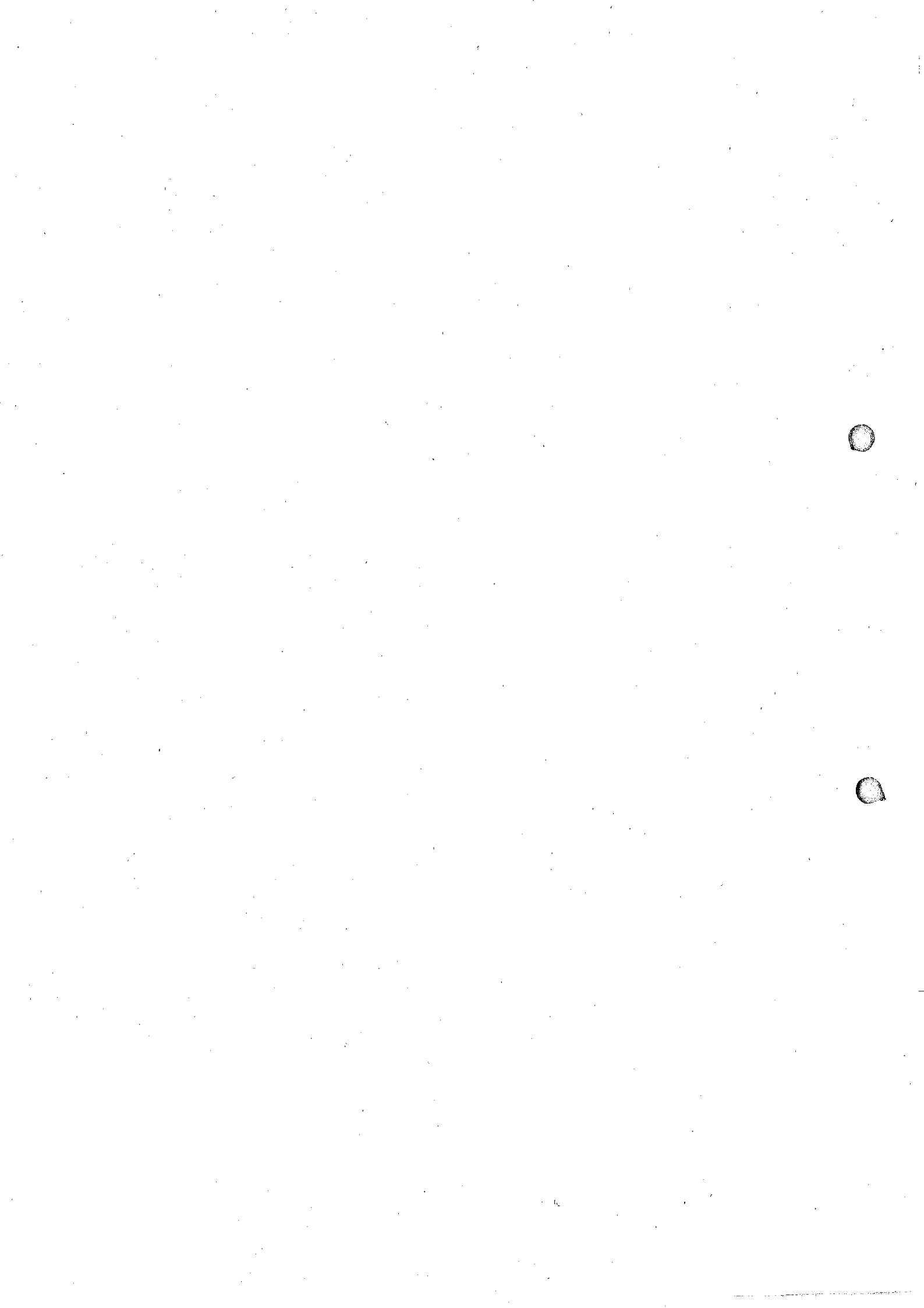
事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)





(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

安曇野市

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	地域住民との協働による森林作り活動の推進 【光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト】
事業費		33,000 円 (うち支援金: 33,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

桜の名所として知られる光城山は、山林所有者や地元区、市民活動団体の保全活動により、豊かな自然環境が守り育てられてきました。

しかし、近年では桜の老木化、外来植物の侵入による周辺の自然環境の変化により、森林としての機能が低下しています。

(2) 本事業の目的

魅力ある地域の資源である「光城山」を後世に引継ぐため、桜の植樹活動を通じた「市民と行政の協働の推進」「市の一体感の醸成」を目的とします。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 安曇野市 豊科 光 (光城山)

(2) 対象者 山林所有者、地元区民、一般市民

(3) 実施方法 桜の植樹活動

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 桜植栽本数 700 本 (H26～R1 まで植栽実績 640 本)

②令和 2 年度実績 桜の植樹 20 本



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

桜の植樹活動を通じた「市民と行政の協働の推進」「市の一体感の醸成」が生まれ、植樹による健全な森林機能の発揮が期待される。

(2) 継続性

市民と行政の協働による「光城山1000人SAKURAプロジェクト」により実施されており、今後も継続的に植樹や管理が行われていく。

(3) 普及性

光城山は、市民等の憩いの場として、また健康増進の場として多くの人が訪れる場所であり、市民との協働事業として行われる本事業は、多くの方に目に見える形となる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

「光城山1000人SAKURAプロジェクト」が11月7日に実施され、20名の参加により、桜苗木20本が植栽された。桜の植樹を通じ、健全な森林づくりが図られ、市民との協働による一体感が生まれている。

(2) 課題

桜の管理を継続的に維持するため、地域を巻き込んだ市民との協働事業の継続的な実施。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

市民と行政の協働により実施されており、今後も継続的に植樹や管理を行っていく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

麻績村

No	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害木伐倒駆除事業
事業費		568,700 円 (うち支援金: 507,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当村では、近年松くい虫被害が急速に拡大しており被害量は年々増加しており予断を許さない状況である。本年度も特別防除、伐倒駆除に加えアカマツの帯状伐採を組み合わせ対策を講じて、現在実施しているところである。

(2) 本事業の目的

春の伐倒駆除で被害を最小限に抑えているところであるが、夏から秋にかけての秋枯れ被害木の伐倒駆除を徹底することで、さらに被害量を抑えることを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 麻績村一円

(2) 対象者 村内の山林所有者

(3) 実施方法 松くい虫の被害の拡大防止を図るためのアカマツ枯損木の伐倒駆除処理を実施。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~令和 4 年度) 100 m³の伐倒駆除処理 (毎年約 20 m³)

②令和 2 年度実績 20 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

春駆除は6月中旬までに処理してしまわないといけない時間的制約があるため、秋枯れ枯損木の早期伐倒駆除により、翌年の春駆除の事業量を抑え、被害拡大を最小限に食い止めることができる。

(2) 継続性

麻績村における松くい虫被害は急激な温暖化等の影響により、比較的被害を受けにくいとされている標高が高い山地においても被害木が確認されるようになってきた。本事業を継続することにより被害の少ないエリアの山林を守り、被害の拡大・防止を図ることができる。また、道路などライフライン近くで被害を受けた枯損木を早期に伐倒駆除処理することで、倒木事故を未然に防ぐことができ、住民の安全を守ることができる。

(3) 普及性

夏から秋にかけて山林は深緑であるため、松くい虫の枯損木が非常によく目立っている状況にある。伐倒駆除を実施することにより、枯損木が無くなった健全な山林を確認することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

今回の事業で松くい虫被害が拡大中の地区において実施できたことにより、来年度の被害拡散が抑えられると思われる。また、今回実施した箇所は主要道路に隣接しており、将来的な倒木等の想定される被害を回避できたと考えられる。

(2) 課題

伐倒駆除、薬剤空中散布を毎年実施し被害拡大防止を図っているが、近年異常な猛暑によりマツノマダラカミキリの活動期間が例年より長く、今まで被害があまり見受けられなかった特に高標高においても被害が確認されてきている。今後は激害地での枯死木への対応についても検討していく必要もある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

過去に本支援金で伐倒燻蒸を行ったエリアにおいても被害が激化し、枯死木が発生しているため、住民生活の安全性の保持のため枯死木を整理する内容を検討したい。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	生坂村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくりに資する取組	松くい虫枯損木処理事業
事業費 774,400 円 (うち支援金: 615,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

生坂村では、マツノザイ線虫による、松枯れの被害が拡大しており、松林健全化推進事業等を活用し、伐倒・くん蒸、空中散布により被害の拡大防止に取り組んでいるが、処理が間に合わず完全に枯れ切ったアカマツが多い。特に枯損木が目立つため、景観上早急な対策が望まれているが、松林健全化推進事業の補助対象外である。

(2) 本事業の目的

補助事業の対象とならない、危険度の高い松の枯損木の伐倒処理を行うことで、地域の景観を保全する。

事業内容

(1) 実施場所 東筑摩郡生坂村 日岐区

(2) 対象者 森林所有者

(3) 実施方法 枯損木については、伐採業者に委託し、伐採・玉切り整理を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 枯損木伐倒処理 50m³

② 令和 2 年度実績 枯損木伐倒処理 24m³



事業効果

(1) 事業実施の効果

枯損木を伐倒整理することで、景観の保全につながる。

(2) 継続性

生坂村には魚骨状となった、枯損木が多数存在しており、今後計画的に処理していきたい。

(3) 普及性

景観が保全されることにより、当事業のPRにつながる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

マツ枯損木を適時に処理することにより、倒木による事故の防止および森林景観の保護が図れる。

(2) 課題

松くい虫被害が村内全域に広がる中、枯損木も村内に多数あり、処理が追いつかない。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

観光地やライフライン沿いに枯損木が多数あるので、来年度以降も継続する。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	山形村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の取組み
事業費		339,900 円 (うち支援金: 303,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

山形村における松枯れ被害は毎年増加する傾向にあり、今後、集落内への拡大が懸念される。

(2) 本事業の目的

公園、寺社境内地、共同墓地その他共有地等の松に対し樹幹注入剤による防除を実施することで、地域の風致景観の維持と森林への松枯れ被害拡大の防止を図る。

事業内容

(1) 実施場所 山形村一円

(2) 対象者 山形村住民

(3) 実施方法

地域から保全すべき松として要望のあったものに対し、村で樹幹注入処理を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

令和 2 年度 保全する松として地域要望があった松に対し樹幹注入。

令和 3 年度以降 地域要望に応じて、薬効の切れるおおむね 5 年ごとに再注入。

②令和 2 年度計画

対象とする松を選定、11 本に対し樹幹注入を実施した。



事業効果

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

風致景観の保全と松くい虫被害拡大の防止が図られた。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

薬効は数年にわたって持続するため、継続した効果が見込まれる。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

地域から要望のあった松に対して事業を実施したことから、事業効果の周知が図られた。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

20本程度の松に対して樹幹注入を実施する計画であったが、大径の松が多かったため、11本への注入にとどまった。

(2) 課題

地域からの要望を取りまとめて実施したが、村全体として守るべき松とその他の松のゾーニングを検討する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

村全体で松くい虫被害が増加傾向にあることから、守るべき松とその他の松を明確にして事業を継続する。

今回は、村の委託業務として実施したが、希望者への薬剤配布とするなど、他の実施方法も検討する。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和2年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

山形村

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	自由に活用できる森林エリアの設定などの地域住民等が森林に触れ合う機会の提供や、そのサービス等を提供するために必要な遊歩道の整備
事業費	258,141円	(うち支援金: 250,000円)

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

山形村清水高原は、宿泊施設「スカイランドきよみず」や別荘地を有する観光地であり、森林浴やトレッキングに親しむ来訪者のための散策路として、遊歩道の整備が求められている。

(2) 本事業の目的

清水高原へのアクセス路や一帯の散策路として機能する遊歩道の整備を実施することで来訪者が安心して歩ける環境を整備し、森林に触れ合う機会を提供する。

事業内容

(1) 実施場所 山形村清水高原

(2) 対象者 清水高原来訪者

(3) 実施方法

委託により、遊歩道の整備を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和2~4年度)

令和2年度 遊歩道の整備

令和3年度以降 遊歩道の整備

②令和2年度実績

遊歩道総延長約4.2km。



事業効果

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

遊歩道を快適に利用できるよう整備することで、清水高原来訪者が森林に触れ合う機会が増加した。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

継続した整備により、イメージアップとリピーターの増加が期待される。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

事業地は村内外から観光客が訪れることから、広く整備効果が周知された。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

下草刈りにより、遊歩道が歩きやすくなったことから、来訪者が森林に触れ合う機会が増加した。

(2) 課題

本年度は下草刈りを実施したが、木製階段の腐食や歩道の一部崩落等もあることから、より積極的な整備が求められる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

遊歩道整備そのものをイベント化して広く参加者を募るなど、作業人員を確保するとともに、森林に親しむ機会を提供する。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	朝日村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	森林公園整備事業（野俣沢林間キャンプ場付近）
事業費		693,000円（うち支援金：682,000円）

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・全体の 87%を山林が占める朝日村ではありますが、朝日林野警備連合会の所有者以外の立入りへの警備や鳥獣防護柵により、里と山の間に明確な線引きがされ、山林に親しむ事が困難になりつつあります。三俣沢には、野俣沢林間キャンプ場に併設された森林公園があり、森林に触れられる数少ない環境になっています。

(2) 本事業の目的 ((1) の課題への対応方向について記載)

公園内の森林整備を行う事で、森林に触れられる場の整備を行い、魅力向上を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

((1) 実施場所 三俣森林公園（大字古見 7-1）

(2) 対象者 キャンプ場及び公園利用者

(3) 実施方法 委託業者による整備の実施を計画。

複数年度継続実施による整備をし、森林公園の散策路(遊歩道)を中心とした整備を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（令和 2 年～ 4 年度）

令和 2 年度 ～ 令和 4 年度

古見 7-1 散策路(遊歩道)に隣接した森林公園整備（連続した個所を実施）

②令和 2 年度 実績

森林公園 下刈り、除伐 0.98 ヘクタール実施



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

- ・村内外の利用者に対し、森林体験できる場所を提供し、森林に親しめる環境整備を行う。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

- ・従前、環境保全林事業によって整備した森林公園であり、今後も朝日村の自然環境を体験できる場所として活用を予定している。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

- ・森林所有者ばかりではなく、公園を訪れる利用者を対象とした啓発、推進ができ、また、一定数利用者の見込める森林公園を整備する事で、森林に触れ合う空間を作り、朝日村の自然環境の普及を推進します。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・該当箇所について、豊かな自然環境である事から、環境カウンセラー、村内活動団体等から動植物の生息状況について陸棲ホタルの一種であるヒメボタルと、乱獲による減少が危惧されるヒロバササユリが生息しているとの情報が寄せられた。
- ・配慮の観点から、実施時期を晩秋に実施し、来年の活用につなげたい。

(2) 課題

- ・今回の事業を通じて、ヒロバササユリとヒメボタルについても、森林体験や観察会などの資源としてとらえていきたい。
- ・除伐整備を実施したが、来年は該当動植物の生息状況を確認しながら、笹刈施業に適した時期に実施したい。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- 事業内容を見直して継続する**

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- ・今後ともに、森林体験の普及するため事業継続を予定。
ただし、事業内容については、より森林に触れあえる空間を検討し、利用方法の提案を図り、実施したい。

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	筑北村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外 枯死木伐倒
事業費 902,000 円 (うち支援金 : 793,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

本村の西条温泉とくら周辺にて枯死木が多数発生し、景観を損っていると共に、今後倒木の恐れがある。

(2) 本事業の目的

西条温泉とくら周辺で枯死木の発生により、危険な状態となっている箇所があるため伐倒処理を行いたい。また観光地でもあるため景観の向上を図りたい。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 筑北村西条温泉とくら周辺

(2) 対象者 観光客、地域住民

(3) 実施方法 伐倒玉切り

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 村の景観を損ねている危険木の伐採

②令和 2 年度実績 L=150m W=20m 209 本

着手前



完了後



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

枯死木伐倒による住民および観光客への危険回避
観光地としての景観向上

(2) 継続性

村内での危険木は多数あり、住民から要望の出ている公共性の高い場所の整備を行っていく。

(3) 普及性

枯死木による倒木の危険がある箇所が多数あり伐採の必要があると共に観光地でもあるため、景観向上が期待できるため効果的である。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

道に倒れる危険性のあった枯死木はすべて撤去し、安全性が確保された。
見通しが良くなり、景観が向上した。

(2) 課題

村内に危険枯死木は多数存在しているため、今後も公共性の高い場所を選定し、実施していく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

村内の公共性の高い場所において、危険枯死木がある箇所について伐倒を進めていく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)